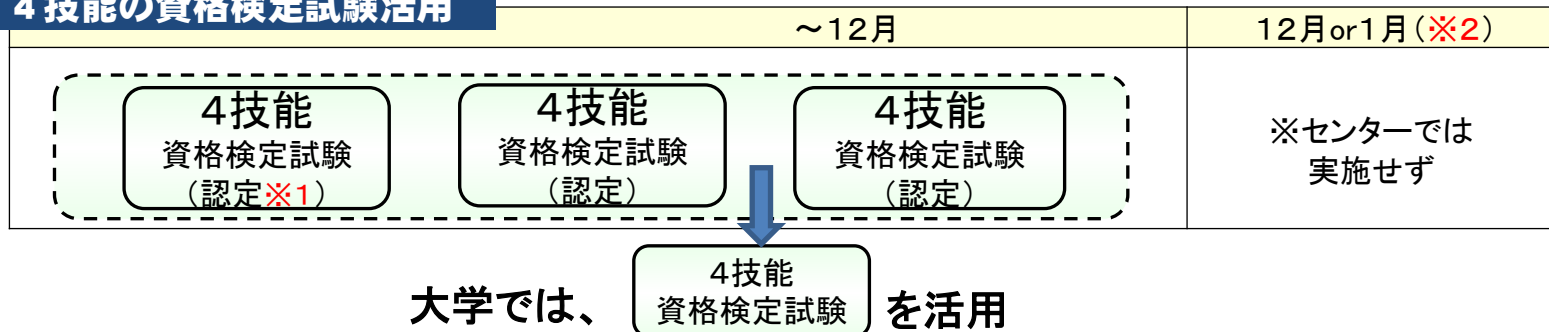


◆英語4技能評価を着実に実施するため、【案1】を見据えながら、当面のセーフティネットも考慮して、【案3】の方向で具体化してはどうか。

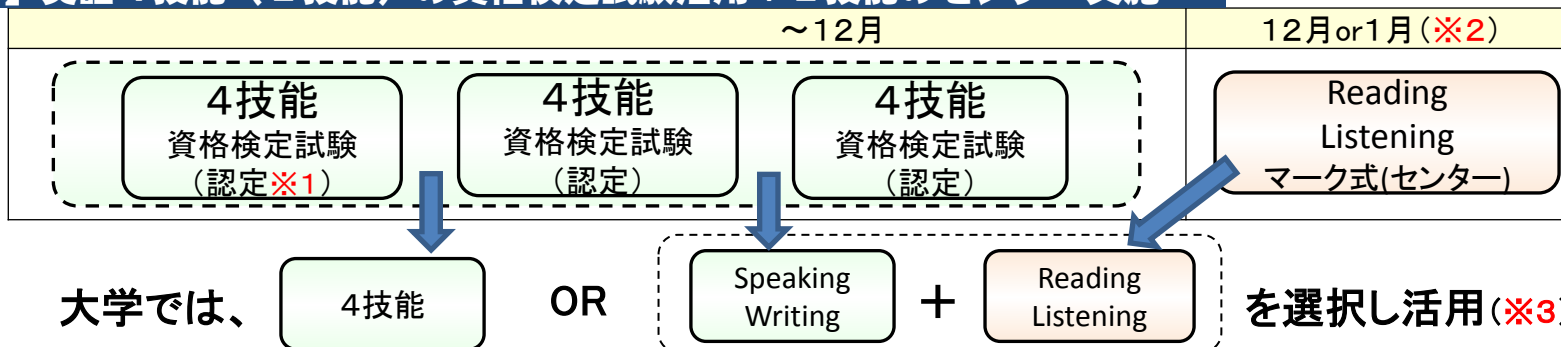
【案1】 4技能の資格検定試験活用



【案2】 2技能の民間委託+ 2技能のセンター実施



【案3】 英語4技能（2技能）の資格検定試験活用+ 2技能のセンター実施



4技能の民間活用
【案1】を見据えながら、当面のセーフティネットも考慮して対応する案

※1 認定基準に応じて、①既存の検定試験のカスタマイズ、②新規の検定試験の導入もありうる。

※2 センターが実施する時期については、12月と1月の双方が考えられる。

※3 大学においては、いずれか（又はその組み合わせ）の活用方式を選択し公表（選抜実施要項に明記）

英語4技能の評価で考えられる形態の例について (メリット・課題)

実施形態	メリット	主な課題
<p>【案1】 4技能の資格検定試験活用</p> <p>※各民間事業者が設定する個別の日程により実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 民間の知見を活用して、4技能評価の一体的な実施が可能 ■ 複数回受検可能 ■ 留学、就職等にも結果を活用可能 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 認定基準や認定の仕組みの検討(学習指導要領との整合性、CEFRとの具体的な対照関係等)、法的整理。 ■ 受検者増を受けた実施場所や運営体制・機材の確保、受検者の集中による運営上のリスク。 ■ 受検生の負担(注) ■ 参入する民間団体が少なく、十分な受検機会の確保ができない場合、英語を全く実施できなくなるリスクあり。
<p>【案2】 2技能(S、W)の民間委託、 2技能(R、L)のセンター実施</p> <p>※民間委託部分は、マークシート式とは別日程の一斉実施。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 民間の知見を活用しつつ、センターが質をコントロール可能 ■ 新テストとしての英語4技能の実施を担保 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 委託基準の検討(学習指導要領との整合性、CEFRとの対照関係等) ■ 約55万人の受検生を対象とした一斉実施のための実施場所や機材の確保。(実施場所が大学・高校となる場合、大学・高校の負担増) ■ センター試験のマーク式の日程とは、別日程の検討が必要。 ■ 受検生の負担(注) ■ 4技能評価の一体的な実施とならない。 ■ 1社への委託となることへのリスクへの対応。また、参入する民間団体がいない場合、RとLの2技能のみとなる。
<p>4技能の民間活用【案1】を見据えながら、当面のセーフティネットも考慮して対応する案</p> <p>【案3】 4技能(2技能)の資格検定試験活用、2技能(R、L)のセンター実施</p> <p>※資格検定試験は、各民間事業者が設定する個別の日程により実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 民間の知見を活用して、4技能評価の実施が可能 ■ 複数回受検可能 ■ 留学、就職等にも結果を活用可能。(4技能民間活用の場合) ■ セーフティネットとして2技能の実施は担保 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 認定基準や認定の仕組みの検討(学習指導要領との整合性、CEFRとの具体的な対照関係等)、法的整理。 ■ 資格検定試験のR、LとセンターのR、Lとの関係(試験内容、難易度、結果表示方法等)の整理が必要。(例:同じ技能でも結果が異なる) ■ 受検生の負担(注) ■ 参入する民間団体が少なく、十分な受検機会の確保ができない場合、RとLの2技能のみとなる。

※いずれの場合も、12月以前実施の高校側の理解、セキュリティや不正防止対策、英語以外の外国語の対応が課題
 (注) 受検料が高額になり経済的負担が大きくなる可能性、離島・僻地、障害者等の受検生への配慮が必要となるなど

民間の資格・検定試験を活用した英語4技能評価に向けてクリアすべき事項（たたき台）

	論点	クリアすべき事項
総論		以下のような事項をクリアするための明確で客観的な認定基準の作成
内容面	○評価すべき能力 （大学入学者選抜としての妥当性）	○高等学校学習指導要領に準拠していること＊ ○英語4技能について、教育課程部会外国語WGの議論を踏まえた資質・能力（注）を適切に測定するものであること＊ （注）外国語で目的・場面・状況等に応じて、幅広い話題について、情報や考えなどの概要・詳細・意図を的確に理解したり適切に表現し伝え合ったりするコミュニケーションを行う力など ○大学入学者選抜としての水準の観点から能力が適切に測定されていること。
	○作問方法・評価の基準 （大学入学者選抜としての信頼性）	○各回の試験内容に一貫性を持たせるための問題作成方法や評価の観点、採点基準の公表＊ ○CEFRとの対照関係（検証方法や客観的な検証結果を含む）の公表＊
実施方法面	○適正かつ公正で透明性の高い試験実施体制	○必要となる採点者の質・量、実施場所、機材の確保＊ ○セキュリティ・不正防止対策＊
実施形態面	○継続性・安定性の確保	○試験の実施に必要な人的・物的能力の確保＊ ○民間の不測の事態に備えた継続性・安定性の観点からのセーフティネットの構築
	○受験料負担（離島・僻地対応等）、障害者への配慮	○受験生の経済的負担を考慮した検定料の設定＊ ○支援策の検討

* 民間団体に求められる取組。認定基準において、具体的な内容を盛り込む。

主な英語の資格・検定試験

参考

試験名	Cambridge English	英検	GTEC CBT	GTEC for STUDENTS	IELTS	TEAP	TOEFL iBT	TOEFL Junior Comprehensive	TOEIC	TOEIC S&W
実施団体	ケンブリッジ大学 英語検定機構	日本英語検定 協会	ベネッセコーポ レーション Berlitz Corporation ELS Educational Services ※一般財団法人進 学基準研究機構 (CEES)と共催	ベネッセコーポレー ション Berlitz Corporation ELS Educational Services	ブリティッシュ・カウ ンシル、 ケンブリッジ大学英 語検定機構 日本英語検定協会 等	日本英語検 定協会	テスト作成： ETS 日本事務局： CIEE	テスト作成： ETS 日本事務局： GC&T	テスト作成： ETS 日本事務局： IIBC	テスト作成：ETS 日本事務局： IIBC
受験人数	国内人数非公表 ※全世界では約 250万人	約263.5万人 (H26実績)	非公表	約81万人 (H27見込)	約3.6万人 (H27速報値) ※全世界では250万人	約1.3万人 (H27実績)	非公表	非公表	約240万人 (H26実績) ※TOEICプログラ ム全世界約700万 人	約2.4万人 (H26実績) ※TOEICプログラ ム全世界約700万人
回数 年間	2-3回	3回	3回	2回	約35回	3回	40-45回	2-3回	10回	24回
会場 数	全国12会場	公開会場230都市 400会場+準会場 (離島含)17,000会 場	全国57会場	学校会場	—	全国30会場	全国90会場	全国170会場	全国256会場	全国43会場
成績 表示 方法	KET/PET/FCE/CA E/CPE(5つ) CEFR、合否、 スコア(80-230)、 グレード	1級~5級 合否による表示 H27~スコア・バンド 併記	0-1400点	0-810点 (S 0-170点)	1.0-9.0 (0.5刻み)	80-400点	0-120点 (4技能を各0- 30点で評価)	0-352点	10-990点 (L、R各5-495 点)	0-400点 (S、W各0-200点)
実 施 方 式	L, R, W: 紙/CBT S: ペア面接	L, R: 紙/CBT (W): 紙 (S): 面接/CBT (*2)	L, S, R, W: CBT	L, R, W: 紙 S: タブレット	L, R, W: 紙 S: 面接	L, R, W: 紙 S: 面接 (*4)	L, S, R, W: CBT	L, S, R, W: CBT	L, R: 紙	S, W: CBT
受 験 料	PET(B1) 11,880 円~ KET(A2) 9,720円~(※5)	2級:5,000円 準2級:4,500円	9,720円	3,080円 L, R, W 5,040円 L, R, W, S	25,380円	15,000円	230USドル	9,500円	5,725円	10,260円

*1: L=Listening, S=Speaking, R=Reading, W=Writing

*3: Sはオプション

*4: L/R, L/R/Wでも受験可能

*2: Wは1級・準1級(H28から2級に導入),Sは3級以上(H28から4級・5級に導入)

*5: 実施試験センターにより異なることあり

各試験団体のデータによるCEFRとの対照表

CEFR	Cambridge English	英検	GTEC CBT	GTEC for STUDENTS	IELTS	TEAP	TOEFL iBT	TOEFL Junior Comprehensive	TOEIC / TOEIC S&W
C2	CPE (200+)				8.5-9.0				
C1	CAE (180-199)	1級 (2810-3400)	1400		7.0-8.0	400	95-120		1305-1390 L&R 945~ S&W 360~
B2	FCE (160-179)	準1級 (2596-3200)	1250-1399	980 L&R&W 810	5.5-6.5	334-399	72-94	341-352	1095-1300 L&R 785~ S&W 310~
B1	PET (140-159)	2級 (1780-2250)	1000-1249	815-979 L&R&W 675-809	4.0-5.0	226-333	42-71	322-340	790-1090 L&R 550~ S&W 240~
A2	KET (120-139)	準2級 (1635-2100)	700-999	565-814 L&R&W 485-674	3.0	186-225		300-321	385-785 L&R 225~ S&W 160~
A1		3級-5級 (790-1875)	-699	-564 L&R&W -484	2.0				200-380 L&R 120~ S&W 80~

英検：日本英語検定協会 <http://www.eiken.or.jp/forteachers/data/cefr/>
http://www.eiken.or.jp/association/info/2014/pdf/0901/20140901_pressrelease_01.pdf

TOEFL：米国ETS <http://www.ets.org/Media/Research/pdf/RM-15-06.pdf?WT.ac=clkb>

IELTS：ブリティッシュ・カウンシル（および日本英語検定協会）資料より

TEAP：第1回 英語力の評価及び入試における外部試験活用に関する検討会 吉田研作教授資料より

Cambridge English（ケンブリッジ英検）：ケンブリッジ大学英語検定機構 <http://www.cambridgeenglish.org/exams-and-qualifications/cefr/cefr-exams/>
<http://www.cambridgeenglish.org/exams/cambridge-english-scale/>

※各試験団体の公表資料より文部科学省において作成

GTEC：ベネッセコーポレーションによる資料より
「L&R&W」の記載が無い数値が4技能の合計点

TOEIC：IIBC <http://www.toEIC.or.jp/toEIC/about/result.html>
「L&R」または「S&W」の記載が無い数値が4技能の合計点